

(三重医学貢献賞医学教育・社会貢献部門)

野中時代（70歳）桑名市総合医療センター 理事兼看護部長

### ○受賞の感想と今後の抱負

この度、三重医学貢献賞という栄えある賞をいただき、関係者の方々に深謝するとともに大変光栄に思い、感動いたしております。2016年に桑名市総合医療センターに勤務して間もなく、このような素敵な賞を頂けるとは、夢にも思いませんでした。

現在、70代に突入した私は、体力の続く限り、多職種の方々と協働し、学び・認め合い・楽しい職場環境づくりに力を注ぎ、医療界の発展に貢献したいと思います。

### ○受賞テーマ

病院経営改善及び東北大震災で原発事故被害なども含め、治療困難となっていた病院の立て直しのため、ボランティア活動を含めた尽力ならびに看護教育に多大な業績を上げたことにより、永年にわたる多大な貢献と社会貢献活動

### ○医学・看護教育、人材育成、社会貢献の分野において成し遂げた顕著な業績

主な取り組みは以下の4つの項目である。

- 1.桑名市総合医療センターでの3病院統合業績、2.福島 of 病院での医療支援の業績、
  - 3.愛知県の病院での経営改善実績、4.看護学教育や医療人教育における人材育成の実績
- 以下に業績の概要を述べる。

### ○業績の概要と将来展望

- 1.桑名市総合医療センターでは、官（1）民（2）の3つの病院を1つにまとめ、2018年5月に新病院として発足した時の看護部長である。平成24年に合併し、（東、西、南）の3つに分かれ、新病院までは各施設が経営を営み、人事の交流はほとんどないに等しい状態であった。そのため、赴任後は毎日、シャトルバスに乗り、3つの施設を回り、現場把握とコミュニケーションに力を注ぐ。

合併前は看護師確保と新病院での看護師配置にほぼ、全エネルギーを投資したといっても過言ではない。結果、看護師321名（97%）が残り、救急外来は変則二交代勤務が可能となり、断らない救急を目指し、救急車の搬入も増加し、経営改善に大きく貢献する。

- 2.福島では、津波や原発事故の被害を受けた浜通り地区の病院や老健、デイケアなどの現場に入り、看護師の一員として支援する。また、この地区の看護部長会に参加し、看護師不足を解決するためにいわき市の7つの病院の看護師1300名にアンケート実施する。その結果を各施設長に報告すると、各施設での改善が始まり、看護師の定着に繋がった。

私は各施設に出向き、現場の活性化に向けて講演を行う。どの施設も必死になっている姿が手に取るように伝わってきた。看護師募集に向け、7つの病院の看護部長達で、郡山で開催された全国の看護管理者学会で現状を報告し、お互いの絆を強めていった。

また、浜通り看護研究を立ち上げ、私は会長として、政界や報道に現状を訴えた。

- 3.愛知県の病院の取り組みでは、公的病院と民間病院の取り組み例を述べる。

#### ①常滑市民病院の看護部長として2年9か月間赴任した取り組み内容を紹介する。

経営母体の市も財政が厳しく、市民病院は医師不足もあり、毎年、赤字経営である。

看護部主体の経営改善プロジェクトチームを立ち上げ、病院全体職員を巻き込み、意識改革と経営改善に繋げる。また、地域医療福祉施設協議会を立ち上げ、地域の医療・介護施設の

紹介状様式を1つにまとめ、地域医療者の負担軽減をはかり、紹介救急患者を増加させる。徐々に経営が改善し、初めて単月で黒字を出した時は常滑市長にお礼の言葉を頂く。

- ②名鉄病院では、済生会病院との合併統合が破棄になり、再建に向けての出発時、副院長兼看護部長として赴任する。ここでは4つのセンター（ウロギネ、認知症、関節鏡、糖尿病）を立ちあげ、多職種で取り組む。チーム医療の原点となり、現場は活性化していく。また、平日の救急は各科外来で行っていたため、救急外来を立ち上げる。その成果は即、現れ、救急車搬入が初年度は約2000件増加し、経営改善に大きく貢献する。そして、耐震不能であった1号館の建て替えが決定し、職員のモチベーションUPに繋がった。

- 4) 人材育成においては看護大学・大学院の講義など、医療人教育においては県外の医療の現場の活性化や診療報酬取得方法や監査の指導にはいり、主に看護管理者研修（サード）などの講師を担当する。

担当した講師；看護管理者研修（愛知県、三重県、石川県、JCHO、AMGなど）

大学院：（愛知県立看護大学院、福井大学看護大学院、順天堂大学看護大学院）

各病院：（富山県（6）岐阜県（4）愛知県（7）三重県（7）香川県（1）の管理者及びリーダー育成を図る。

上記からの将来展望について

日本全国、統廃合が進められている中で、桑名市総合医療センターは全国の模範となり、そして、統合してよかったといわれるような病院づくりを目指していく必要がある。

私が関与した医療施設は、場所は違っても、地域に必要な医療施設であり、地域に愛される施設となるために、職員全員で健全な経営を営むことに取り組まなければいけない。特に看護部は職員の半数以上を占めており、大きな集団である。このトップを担う看護部長は、世の中の流れ、特に診療報酬には強くならなければ将来の見通しは立たないと考える。看護部長兼務の副院長職を併せて持つと、職種を超えて病院全体の風通しが図れる。その施設が存続するためには、稼ぎマンである医師を上手にバックアップし、現場の看護師長の人材育成に力を入れ、医療界の将来を担う管理者を育てたいと考える。

○関連分野における本業績の特記すべき点

1つ目は「看護部が変われば病院は変わる」を信条に看護部長のリーダーシップは大切な役割であり、院長・事務長と共にトライアングル関係を築き、円滑なコミュニケーションを目指す。

2つ目は自施設だけでなく、地域に信頼される病院になるには地域とのコラボは大切であり、双方にwin-winである関係を築けるよう常に心がけることが必要である。

3つ目は現場の職員が働きやすい職場環境づくりをめざす。職員満足度を上げる方法を常に考える管理者でなければいけない。基礎となるのは人材育成と考える。

また、診療報酬を取りこぼさないためにも医事課との協同作業は重要でもある。

○本業績における実績

1.著書

- ①監修大島敏子共著：経営感覚と経営の心を両立させる組織つくりとマネジメントの鉄則  
ビジネスナーシング、メディカ出版.2014

2.学術論文

- ①野中時代：新人看護師をチームで育成する働きかけとプリセプターの役割.固定チーム

ナーシング研究会.2012

②野中時代”野中流”リーダーシップコーチングによる看護部主体の経営改善.看護部通信.

P60-70.4 - 5月号.2011

③野中時代他：新人看護師が配属部署を選択する研修システムがもたらす病棟の活性化

第40回日本看護管理学会論文集、日本看護協会出版会.2010

④野中時代他：新人から先輩へ、新人育成の支援と評価：新人からのメッセージ.

看護実践の科学34.2009

### ○略歴

#### 専門学歴

1972年3月 名古屋市立高等看護学院卒業

1987年3月 国立名古屋病院付属看護助産学校助産科卒業

#### 一般学歴

1971年3月 愛知県立旭丘高等学校卒業

1998年3月 日本福祉大学社会福祉学部福祉学科Ⅱ部卒業

2001年3月 日本福祉大学大学院（社会福祉学研究科福祉マネジメント専攻修士課程）修了

2015年1月 日本医療経営機構日本医療経営人材育成プログラム修了

2018年3月 滋慶医療科学大学院大学医療安全管理学研究科（医療安全管理学専攻修士課程）修了

#### 職歴

1972年4～ 1974年3月 : 名古屋市立東市民病院 外科病棟 看護師

1974年4～ 1977年3月 : 労働福祉事業団中部労災病院 外科病棟 看護師

1977年4～ 1980年1月 : 労働福祉事業団中部労災病院 整形外科看護師長補佐

1981年6～ 1989年3月 : 東海産業医療団中央病院 外科病棟看護師長

1989年4～ 1994年3月 : 東海産業医療団中央病院 産婦人科病棟師長)

1994年4～ 2002年3月 : 稲沢市民病院 看護師長 2000年10月 副部長

2002年4～ 2005年3月 : 稲沢市民病院 看護部長

2005年4～ 2006年3月 : 東海産業医療団中央病院 部長代理

2006年4～ 2008年3月 : 東海産業医療団中央病院 看護部長

2008年4～ 2010年12月 : 常滑市民病院 看護部長

2011年1～ 2011年12月 : 偕行会名古屋共立病院 看護部長

2012年1～ 2012年6月 : 名鉄病院 副部長

2012年7～ 2014年6月 : 名鉄病院 副院長兼看護部長

2014年7～ 2016年3月 : 公益財団法人ときわ会グループ統括本部 相談役

2016年4～ 2019年9月 : 地方独立法人桑名市総合医療センター 理事・総括看護部長

2019年12～現在 : 地方独立法人桑名市総合医療センター 顧問

### ○専門分野

認定看護管者 (CAN)

資格 (看護師、助産師、救急救命士、介護支援専門員)